

## 実践のまとめ（小学校2学年 国語科）

授業公開日 令和3年6月25日

指導者 長岡市立寺泊小学校

教諭 野村 由貴恵

### 1 研究テーマ

#### 自分の思いを相手に分かりやすく伝える表現力の育成

#### ～作文の構成の指導と、児童の学び合いの工夫をとおして～

### 2 研究テーマについて

#### (1) 研究テーマ設定の意図

本学級の実態として、自分の思いをもち、「書き表したい。」「伝えたい。」と意欲的に取り組む児童が多い。また、1年時の作文単元の指導や、「あのねノート」を活用した日記指導の内容が少しずつ定着しており、一字下げや句読点の位置を適切に書き、自分の経験を豊富に書く児童が多い。

一方で昨年のC R T検査（国語）においては、多くの領域が全国比を超えている中で、「書くこと」の「事柄や順序を考えて書く・推敲する」という中領域のみが、全国比をやや下回った。一年時の作文単元を通して、表記の仕方を学び、行事などの振り返り作文を「あのねノート」に書く経験を積んできたが、順序を考えて作文を書くことや、読み返してより良く直すことが身に付いていないといえる。また、どんな内容をどのような順序で書いたら良いか悩んでいる児童や、少しの量の文章しか書けない児童もいる。2年生になり、かぎ（「」）など新しい表記の仕方も学習し、書くことが苦手な児童にとっては、さらに苦手意識が高まることが懸念される。

本研究では、児童の「書きたい。」「伝えたい。」という思いをもとに、文章を順序立てて構成する良さに気付かせ、自分の思いを分かりやすく書く力を身に付けさせる。教材文や友達の作文と自分の作文を読み比べ、表現の良さに気付き、より良い書き方を追求する姿を目指す。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 児童が書きたいと思う題材設定

児童に「書きたい。」「伝えたい。」という思いをもたせる題材として、生活科の町探検での体験を取り上げる。町探検では、一班3～5人の7グループに分かれ、地域の商店などを訪問し、見学したりインタビューをしたりした。町探検で見つけたものや、地域の人に聞いたことは、児童にとって新しい発見や学びであろう。地域の「すてき」を、ほかのグループの友達にも伝えるために、分かりやすい文章を書こうと投げかけることで、書く意欲や目的意識を高めたい。

##### ② 基本的な作文の構成の指導

作文メモの書き方や、原稿用紙での題名や名前を書く位置、一字下げや句読点については、一年時に学習している。内容の順序は、児童が感じたままに書くことが多かった。本単元では「はじめ」「中」「おわり」という構成について学び、伝えたい内容が明確になるように順序に沿って簡単な構成を考える。はじめに、視覚的にとらえさせるためにデジタル教科書の作文例を用い、どの項目にどんなことを書くのか、印を付けたり色分けしたりして考える。そして、自分のメモをどの項目に書いたら良いかを考えるために、ミライシ

ードのムーブノートを活用する。ムーブノートのカードに書きたいことをメモしたり、画面上で並び替えたりする操作を通して、順序を決めさせ、相手に伝わる作文構成を身に付けさせる。

③ 作文を書く力を高める学び合い

単元の要所で、児童同士の交流の場を設ける。構成を練り上げる段階で、同じグループの友達と相談する場を設ける。自分の作文構成に自信を持ち、作文に臨めると考える。また、作文を書いた後も、教科書の作文例や友達の作文と読み比べ、自分の作文を推敲させる。作文指導の観点をポイント制で示し、多くの得点を目指して推敲することで、基本的な書き方を定着させる。

|                         |
|-------------------------|
| 字が ていねい。                |
| 字が 正しい。                 |
| 書き始めに一字下げをしている。         |
| 文の途中に適宜「、」を入れている。       |
| 文の終わりに「。」を書いている。        |
| 「はじめ」「中」「おわり」に分けて書いている。 |
| 「中」が、分かりやすい。            |
| 「中」で、かぎ（「」）を使っている。      |
| 「おわり」で、自分の思いを書いている。     |

(3) 研究テーマにかかわる評価

「書くこと」において、「はじめ」「中」「おわり」の構成や、文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表すことができた児童が80%以上になる。

(作文の記述)

3 単元と指導計画

(1) 単元名 寺泊のすてきをしょうかいしよう

教材名 組み立てを考えて書き、知らせよう

～こんなもの、見つけたよ～ (光村図書・2年上)

(2) 単元の目標

○句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。

(知識及び技能等)

○「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、内容が分かるように書き表し方を工夫することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

○地域の「すてき」を文章で伝えることに粘り強く取り組み、より分かりやすい文章を書くために友達と進んで相談したり、作文を推敲したりしようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

(3) 単元の評価規準

| 知識・技能                                | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|--------------------------------------|--|--|
| 句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 | 「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、内容が分かるように書き表し方を工夫している。 | 事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見通しをもって、組み立てを考えて文章にまとめようとしている。 |

(4) 単元と児童

本単元では、読む人に分かりやすく伝えるために、文や文章をどの順番でつなげて書くときよいのか、文章の組み立てを考える力を育てたい。「はじめ」「中」「おわり」の構成を知り、それを基に作文を書くことは、今後の作文単元や、説明文の読解にも生かすことができる。本単元での「書けた」という成就感が、児童の「書く能力」の伸長に大きく影響するで

あろう。

前作文単元「かんさつ名人になろう」では、意欲的に観察記録文を書こうとする児童が多く、また友達に読んでもらい、直すポイントを教わる姿や、書き上げた作文を友達同士でじっくり読み合う姿が見られた。児童によって文章量や既習事項の定着に差があるため、児童の学び合いを通して、書く内容が深まったり作文の書き方を身に付けたりする姿を期待したい。

(5) 単元の指導と評価の計画（全9時間、本時4／9時間）

| 次 | 時      | 学習内容                               | 学習活動  | 主な評価規準と方法   |
|---|--------|------------------------------------|---|---|
| 1 | 1      | ・単元のめあてを知り、学習の見通しをもつ。              | ◎寺泊の「すてき」を文しょうに書いて、つたえよう。<br>①教科書を読み、町探検で見つけたものを、友達に伝えたいという意欲をもつ。<br>②書くことメモ、組み立て表、作文を書く、読み返して清書する、友達の作文を読んで感想を伝えるという学習の進め方を確かめる。 | 主単元のめあてを知り、学習の見通しをもって、文章を書こうとしている。<br>【発言・ノート】    |
| 2 | 2      | ・町探検メモを見返して、どれを伝えるか考える。            | ◎どのことをさく文に書くか、きめよう。<br>①書くことメモの内容をデジタル教科書で確かめる。<br>②グループの町探検メモを見返して、書きたいことメモを作る。  |   |
|   | 3      | ・作文の構成を知る。                         | ◎さく文の組み立てってなんだろう。<br>①「はじめ」「中」「おわり」にそれぞれ何を書くか、デジタル教科書で確かめる。   |   |
|   | 4      | ・メモをもとに、構成を考える。（本時）                | ◎組み立てひょうに、メモをならべよう。<br>①書きたいことメモが、「はじめ」「中」「おわり」のどこに入るか考えて、並べる。<br>②友達と交流し、順序や内容について感想や助言を伝え合う。<br>③交流を生かし、組み立て表を完成させる。            | 思・判・表「はじめ」「中」「おわり」にそれぞれ何を書くか理解し、構成を考えている。【ムーブノート】 |
|   | 5<br>6 | ・構成を意識して、文章を書く。                    | ◎組み立てひょうを見て、さく文を書こう。<br>①作文のポイント9項目を理解する。<br>②組み立て表を見ながら、作文を書く。   | 思・判・表組み立て表に沿って、文章を書いている。【作文用紙】                    |
|   | 7      | ・文章を読み返したり、友達と読み合ったりして、直すところを見付ける。 | ◎さく文を読みあって、いいところや、なおすところを見つけよう。<br>①同じグループの友達の作文を読む。<br>②感想や助言を伝え合う。  | 知・技書いた文章を読み返し、句読点やかぎの使い方を確かめ、間違いを正している。<br>【作文用紙】 |

|   |   |                       |  |  |
|---|---|-----------------------|--|--|
|   | 8 | ・寺泊のすてきが伝わる作文を完成させる。  | ◎寺泊のすてきが伝わるさく文をかんせいさせよう。<br>①前時の感想や助言を生かして、作文を書き上げる。 |  |
| 3 | 9 | ・完成した作文を読み合い、感想を伝え合う。 | ◎みんなのさく文を読んで、かんそうをつたえよう。                             |  |

#### 4 本時の展開

##### (1) ねらい

文章構成を考える活動において、ムーブノートを活用したり、友達と相談したりすることを通して、「はじめ」「中」「おわり」に何を書くか決めることができる。

##### (2) 展開の構想

前時では、デジタル教科書を使って、教科書の構成メモや作文例で「はじめ」「中」「おわり」にどのようなことが書いてあるのかを学習した。本時ではムーブノートを使い、自分の書きたいことメモを「はじめ」「中」「おわり」のどこに書いたら良いのかを構想する。その後、友達がどのように構想したのか共有する。友達との相違点に気付き、メモを直したり付け加えたりして、自分の伝えたいことがより伝わる組み立てメモにしていく姿を期待する。

##### (3) 展開

| 時間(分)                      | 学習活動                  | T : 教師の働き掛け<br>C : 予想される児童の反応  | □評価 ○支援 ◇留意点<br>→「努力を要する」状況<br>(C) への手立て                                  |
|----------------------------|-----------------------|--|---|
| 5                          | 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。 | T 1 作文の組み立てとは、何でしたか。<br>C 「はじめ」「中」「おわり」です。<br>C 「はじめ」には見つけたもの、「中」には、詳しいことを書きます。「おわり」には、読んだ人へのメッセージが書いてあります。          | ◇前時まで、ムーブノートの操作に慣れておく。<br>○前時のデジタル教科書を提示する。                               |
| ◎じぶんのメモをならべて、書くじゅんばんをきめよう。 |                       |  |   |
| 10                         | メモを並べる。               | T 2 ムーブノートに並んでいるメモを「はじめ」「中」「おわり」に並べましょう。<br>C モンブランの作り方を教えてもらったから、それを順番に紹介したいな。                                      | ◇机間指導し、「中」の構成が、詳しくなっているか、順序立っているかを見取る。                                    |
| 10                         | 友達と交流する。              | T 3 同じグループの友達の組み立て表を見て、並べ方で良いところや、アドバイスを伝えよう。<br>C 友達は、ケーキの種類を紹介しているな。最初に全部で何種類かを書くと分かりやすいな。<br>C こことここを並び替えると、分かりやす | ○GIGAスクールサポーターがタブレットの作業支援を行う。<br><br>□[思・判・表]「はじめ」「中」「おわり」に何を書くかを理解し、構成して |

|    |                 |  |   |
|----|-----------------|--|---|
| 15 | 組み立て表を見直す。      | い順序になると思う。<br>T 4 メモを直したり、付け足したりしましょう。<br>C メモを付け足そう。<br>C メモを入れ替えてみよう。                                  | いる。(ムーブノート)<br>→付け足すと良い情報を、町探検メモから探させる。<br>→分かりにくい順序の例を提示し教科書や自分の組み立て表と比べさせる。 |
| 5  | 本時のまとめと振り返りをする。 | T 5 次の時間は作文を書きます。書けそうですか。<br>C 最初は自分で順序を考えただけ、友達の組み立て表を見たり教えてもらったりして、分かりやすい順序にすることができた。組み立て表を見れば、作文が書ける。 | □ [主] 本時の学習を通して、次時への見通しをもっている。(振り返り)  |

#### (4) 評価

「はじめ」「中」「おわり」に何を書くかを理解し、構成することができた。(ムーブノート・振り返り)

### 5 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 児童が書きたいと思う題材設定

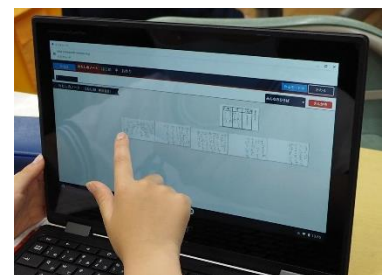
生活科の町探検では、児童が初めて知ったことや、改めて素晴らしいと分かったものが見つかり、一生懸命働いている人に出会うことができた。こうした地域の「すてき」は、児童の「他の人へも伝えたい」という意欲を喚起する題材として有効であった。

この生活科の意識を本単元につなげ、伝えるために分かりやすい文章を書こうと目的意識をもって学習を進めることができた。児童は、「はじめ」「中」「おわり」という構成で書くと、伝えたいことを分かりやすく書くことができるという実感をもち、組み立て表を見直したり、一度書いた文章を推敲したりしていた。単元を通して、児童の「伝える」という意識を継続させることは、構成を身に付けようという意欲を喚起する上で有効であった。

##### ② ICTを活用した基本的な作文の構成の指導

作文の構成を学ぶために活用したデジタル教科書は、「はじめ」「中」「おわり」のスタンプを押すことができたり、ペン機能で色分けや書き込みができたりする。見付けたものメモと組み立て表の内容の相違点を視覚化して理解させることができた。

また、作文の組み立て表として、ミライシードのムーブノートを活用した。一般的な作文の構成指導では短冊や付箋に書かせるが、ムーブノートのカードを用いることで、作文に書く内容の検討や並び替えがタブレットの画面上で容易にできた。



##### ③ 作文を書く力を高める学び合い

本時では、「いいね」という感想や、「カードを入れ替えたらいいいんじゃない?」「こ

う書き直したらいいんじゃない？」というアドバイスの例を示し、学び合い活動に入らせた。教師の例示した以外にも、自分が悩んでいることを友達に積極的に質問し、解決しようとする姿も見られた。交流した後は、友達の意見を生かして直したり付け加えたりする様子も見られた。



また、作文を書く9観点を理解し、下書きを記述する際に、一字下げや句読点に気を付けながら書く姿が見られた。また、児童同士で読み合ったときにも、字のていねいさや「中」の内容の分かりやすさを褒める姿が見られた。児童同士の学び合いを通して、作文の書き方を身に付けさせることができたと考える。

④ 研究テーマにかかわる評価

「書くこと」において、「はじめ」「中」「おわり」の構成や、文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表すことができた児童は以下のとおりであった。

|                             |                |
|-----------------------------|----------------|
| 「はじめ」「中」「おわり」の構成で作文を書いている。  | 21人<br>(95.4%) |
| 「中」の内容において、前後の文の続き方が適切である。  | 16人<br>(72.7%) |
| 「中」の内容において、内容に応じて段落をまとめている。 | 12人<br>(54.5%) |

けしきがいいしお見だい  
わたしは、しお見だいでいろいろ  
なものを見てきました。  
しお見だいの前には、町もたぐさ  
ん見えませんでした。よるになると夕日が  
きれいです。  
しお見だいでみや川さんから夕日  
のしゃんを見せてもらいました。  
「夏になると花火が見えます。」  
と話していました。  
みんなにいいけしきをみてもらい  
たいです。

本単元の学びを通して、多くの児童が構成を意識して作文を書くことができるようになったと言える。

(2) 課題

① 「中」の内容を深めたり段落構成を検討させたりする働きかけ

「中」の文では、一つのものについて、複数のすてきを書いている児童がいた。例えば、「海が見えた、町が見えた」や、「こんな商品があった。あんな商品もあった」ということを羅列して書く子どもがいた。どれも児童が感じた「すてき」ではあるが、「このことは、どんなことだったの、くわしく教えて？」と教師が声がけすることで、書き出した一つ一つをより詳しく思い出し、書くことができたのではないか。このような詳しく書かせるための教師の働きかけが必要であった。そうすることで、より多くの「すてき」を具体的に紹介する作文となり、内容が深まったと考えられる。

また、多くの児童が、組み立て表のカード1枚につき、1段落で作文を構成していた。一つのものについて複数のカードに渡って「すてき」を書いている場合であっても、段落を分けて書いてあるため、内容のまとまりが分かりにくくなっていた。カードの記述内容に着目させ、同じテーマで書いている場合は文章をつなげる、テーマが変わる場合は段落を分けるという、段落構成の仕方も指導する必要がある。

② 自分の力で文章を推敲する力の育成

構成メモや作文を自分で音読するだけでは、言葉の使い方や文のつながりの良し悪しに気付くことができない児童もいた。児童のこれまでの経験だけでは、良い作文なのか直すべき作文なのか、判断が付かないと推測される。教科書の例文や友達の良い作文に多く触れさせることによって、表現の良さに気付いたり真似して書いたりする経験に繋がるであろう。こうした経験をたくさんさせ、個々の表現力や推敲力を高めたい。